

「校内展示と学習発表会の子どもたち（令和4年度）」

北海道函館聾学校 校長 門 眞 義 弘

令和4年度は、「初代校長の篠崎清次先生が聴覚障がい教育をはじめた120年目」であり、あの「ヘレン・ケラーさんが自伝を書いて120年目」の記念すべき年でした。大きな行事はできませんでしたが、校門前の道路沿いに「さくらの木5本」を記念に植樹してお祝いをしました。これまでも、前校長先生や元校長先生方が、子どもたちに本校の歴史について沢山のことを伝えてくれたため、子どもたちは学校の歴史にとっても興味をもって学ぶ事ができました。本校には、その子どもたちの興味・関心を学びに結び付け、修学旅行の訪問先にしたり、学習発表会の劇にしたりして体験的に学ばせ、理解を深める活動に結び付けてくれた先生方がいます。今考えてみても、なかなかできることではなかったのではないかと振り返っています。しかし、残念なことに当時はコロナ禍だったため、保護者以外のおじいさんやおばあさん、ご親戚の皆さんや地域の皆様に見てもらうことができませんでした。（学校運営協議会はまだ始まっていませんでした。）とてももったいないことだと感じています。創立130周年記念事業を前に記録しておきたいと思います。

※函館聾学校の歴史と記念植樹の様子を動画にしてホームページで公開しています。

◎ 校内で展示を開始！



「120年」の展示（R4・6末～）

教職員に校内の改善に繋がるアイデアを募集したところ、上記の「展示スペースをきれいにしてはどうか。」という意見をもらいました。確かに何の賞状か、何のトロフィーか説明できないものばかりが展示されており、ほこりがたまっていました。蛍光灯がつかますが、スイッチを入れても薄暗い感じです。

「ここをきれいにして、函館聾学校を象徴する展示をしよう。」と思い立ち、何を展示したら良いかアイデアをしぼることにしました。

そうしていると、「ヘレン・ケラーの手紙」が発見されたという市立函館博物館の学芸員の方の記事が新聞に掲載されるようになりました。長万部町での出来事ではありましたが、関心をもって報道を気にしておりました。そのようにアンテナを張って新聞に目を通していたところ、令和4年5月28日のこども新聞（北海道新聞）に、ヘレン・ケラーさんが「自伝発表から120年」という記事が掲載されました。このことは、本校の歴史と何か関連がないかと読み進めると、ヘレン・ケラーさんが初代校長の篠崎清次先生と同世代である事に気付きました。さらに、創立年ではなく、聴覚障がい教育をはじめ

て何年目かを確認してみたところ、明治35年から令和4年までで、丁度120年目であることが分かりました。後で分かったことですが、ヘレン・ケラーさんが大学で学びはじめた明治30年代前半には、ヘレン・ケラーさんの影響なのか、日本の各地で聴覚障がい教育がはじまった時期と重なっていたのです。こうして、「120年」という原稿を書き、このことをテーマに、6月末から展示スペースに展示することにしました。展示に必要なイーゼル（絵を立て掛ける道具）は、本校職員の手作りであり、「展示をきれいにしてはどうか。」と提案してくれた職員が協力して作成してくれたのでした。

創立年も大切ではありますが、このことは貴重で大切な記念になると考えました。ですから、全校朝会で子どもたちに知らせると共にホームページに掲載することにしました。また、近くの「かすみ園」さんの御協力を得て、桜の苗木を調達し、植樹する10月までお店でお世話をしてくれることになりました。



「さくらの記念植樹」（R4.10.18実施）

すると間もなく、元校長の佐藤在寛（佐藤政次郎）先生のご自宅近くにお住まいだったという函館市民の方からご連絡をいただきました。ご自身のお父様や佐藤在寛先生と一緒に映るヘレン・ケラーさんの写真をご寄贈いただきました。その写真の中には、ヘレン・ケラーさんが昭和12年に来函された際に行った講演会チケットの半券なども含まれており、展示スペースに掲示することができました。

ホームページを見て、今度は、手話を学んだことがあるという新聞記者さんが連絡をくれました。そして、9月11日の紙面でこの展示ス

ペースのことを記事にしてくれました。

全ては教職員のアイディアからはじまったことでしたが、地域の皆様とも繋がるきっかけとなり、どんどん広がりを見せたことに驚きと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

さらに展示には、大阪府立中央聴覚支援学校が作成した絵本「高橋潔」（手話を守った）や「大曽根源助」（指文字を作った）、「古川太四郎」（日本ではじめてろう教育をはじめた）等を加え、自由に見られるようにしました。

◎ 小学部の修学旅行で跡地巡り



聾学校や盲学校の歴史、歴代の校長先生に興味をもった児童が、修学旅行の研修場所にしたのが跡地巡りでした。函館は度重なる大火があり、校舎が焼けてしまって同じ場所に長くあり続けることはできませんでした。

①函館訓盲会（青柳町会館）②函館訓盲院（相生町セイコーマート前）③私立函館盲啞院（蓬萊町）④私立函館盲啞院（汐見町）⑤財団法人函館盲啞院（元町、公会堂横）

と、5カ所を巡り、記念写真を撮りました。このことを、まとめの学習と発表活動、そして学習発表会の劇に結び付けていきました。

◎ ヘレン・ケラー役はだれ？（学習発表会）

令和4年11月2日に行われた学習発表会では、小学部が6年生と一緒に函館聾学校の歴史や日本の聾学校や盲学校の歴史について学び、役になりきって劇をしました。

ヘレン・ケラーさんは、女子2名がそれぞれ



子ども役と大人役になって演じました。日本ではじめて京都でろう教育をはじめた古川太四郎先生役や日本の指文字を作った大曽根源助先生役、そして、北海道ではじめて聴覚障がい教育をはじめた函館聾学校初代校長の篠崎清次先生役になりきって劇をしました。

これら1年間を通した学習は、子どもたちにとってだけではなく、大人にとっても多くの学びのある学習活動になりました。皆さんに御紹介させていただきます。



「小学部 劇の台本の表紙」



3 言語劇 「歩み続ける歴史」 小学部 10:00～

函館聾学校は、今年の10月で記念すべき127年目！本校のホームページでも紹介しておりましたが、令和4年度は、「2つの120年」の年でもあります。ご覧いただけましたでしょうか。

この記念すべき年を、さらに輝きあるものにしようと、子どもたち一人一人が、この函館聾学校を支え続けてくださった方々の役を演じ、協力して劇を成功させ、より多くの皆さんに歴史を知ってもらおうと練習に励んできました。劇を通して歴史に触れ、これまで支えてきてくださった方々への思いに寄り添うことで、これから語り継がれていく大きな力となるのではないのでしょうか。歴史とじっくり向き合うことで、生まれてくる感動と魅力が、これからもずっと続くことを願いながら演じます。どうぞ、ご覧ください。



小学部6年 ○○○○

<キャスト>

ヘレン・ケラーさん（こども）	2年	○	○	○	○
大曽根源助先生	4年	○	○	○	○
古河太四郎先生	5年	○	○	○	○
ヘレン・ケラーさん（大人）サリバン先生	5年	○	○	○	○
篠崎清次校長先生	6年	○	○	○	○



令和4年度 学習発表会プログラムの一部